

フランス語インテンシブ 4 慶応義塾大学 SFC 2012 年秋学期シラバス (改訂版)

インテンシブ4は、本格的な中級の実力を身につけて《SFCフランス語》の黒帯になるための最後の段階です。ここをしっかりと乗り越えれば、フランス語スキル各科目の履修資格が得られますし、フランス語による講義科目を履修する準備も整ったといえます。さらに、フランス語圏に留学してもさほど苦労しないはずです。

インテンシブ4の目安としての到達目標は、DELFL のB2資格取得、仏検準1級合格、そしてTCFで400-499点程度のスコアを得ることができる実力を身につけることです。これは正直なところ非常に高い目標ですが、部分的にでも達成してほしいものです。

インテンシブ4では、同3と同様、コース別に2クラスを編成します。

学生諸君には、自分のフランス語学習の目的を見据え、自分の適性や学習スタイルを踏まえて、A・Bクラスのいずれかを選んでください。

クラス	火曜・水曜	木曜・金曜
A	両クラス合同コア授業 (基本的な文法の理解と総合的演習)	「読み書き」に重点を置くコース別授業
B		「話す・聞く」に重点を置くコース別授業

■ コア授業： A・B両クラスの履修者へ

週 2 回(火曜2限と木曜1限)、A クラスと B クラスの合同で、インテンシブ4のコア授業を行います。これは2つのコースの共通の幹を成す授業だと理解してください。読む・書く・聞く・話す力を総合的につけることを目指しますが、特に文法的な補強と書く能力の養成に力を入れます。

インテンシブ4まで来ると、フランス語学習も佳境に入ったと言えます。なぜなら、インテンシブ3まででフランス語の基礎的なことをほぼひと通り学んだわけですが、まだせいぜい、いわば 25m プールで泳いでいる段階です。インテンシブ4のレベルで初めて 50m プールに入り、大海に泳ぎ出る準備をするようになります。

火曜2限と木曜1限の授業は原則として互いに関係を保って進められます。水曜日の授業が先行して、具体的なテキストの世界に皆さんを誘い、翌週の火曜日に文法的なポイントをモジュール形式で学びます。水曜日の授業では様々な形態の文章に触れ、実際に書いてみることを通じて、フランス語で考えるとはどういうことか、そのあたりも体験できるでしょう。

最近、外国語を学ぶのは何でもいいからとにかくネイティブと「話す」ことができるようになるのが目的だという考えが広く流通しているようです。しかし大学生が、それだけで満足してよいのでしょうか？最低限の旅行会話でよいのなら、今日ではどこの国へ行ってもたいい英語で通じます。せっきゃくフランス語を学ぶのなら、どのように世界を切り取り、どのように自分の考えを組み立てて話すのかによって、コミュニケーションの内容まで変わることを知るべきでしょう。中上級のフランス語への挑戦を励ます所以(ゆえん)です。

1. 教科書

教材として、インテンシブ3で使用した次の文法教材を継続使用予定です。すなわち：
Grammaire Progressive du Français (Niveau intermédiaire) Nouvelle édition, CLE international. 約 3000 円強(税込)
 この教科書に関する解説や録音は以下を参照。
 資料：<http://s186577248.onlinehome.fr/vincent/intensif3/>

2. 担当教員

火曜 2 限 山根祐佳
 木曜 1 限 ジェローム・ルボワ

3. 授業スケジュール(あくまで暫定)

mardi	jeudi	Yamane	Le Bois
9/25		Introduction Verbe (1) : temps du passé (1) – passé composé / imp.	
	9/27		Cours spécial de J. Le Bois (1)
10/2		Verbe (2) : temps du passé (2) – passé sim. / passé antér.	
	10/4		La présentation d'un sujet choisi (1)
10/9		Verbe (3) : autres temps	
	10/11		La présentation d'un sujet choisi (2)
10/16		Verbe (4) : discours rapporté	
	10/18		Le compte-rendu d'un texte choisi (1)
10/23		Verbe (5) : gérondif, participe présent	
	10/25		Le compte-rendu d'un texte choisi (1)
10/30		Verbe (6) : hypothétique	
	11/1		Le commentaire critique d'un texte choisi (1)
11/6		Verbe (7) : subjonctif	
	11/8		Le commentaire critique d'un texte choisi (2)
11/13		(Conférence 1).	
	11/15		Cours spécial de J. Le Bois (2)
11/27		Verbe (8) : constructions infinitives - faire, laisser, verbes de sensation	
	11/29		Code oral / Code écrit
12/4		Verbe (9) : passif, verbe pronominal, etc.	
	12/6		Le résumé d'un texte choisi (1)
12/11		Nom et articles	
	12/13		(この日の2限に Conférence 2 あり) 1限の授業はなし。その代わりに 2限の講演会に参加の事。
12/18		Liaison logique (1): cause, conséquence, but	
	12/20		Le résumé d'un texte choisi (2)
12/25		Liaison logique (2) : opposition, concession, comparaison	
	12/27		Cours spécial de J. Le Bois (4)
1/8		Examen final 2	
	1/17		Examen final の講評

4. 評価(インテンシブ4全体の50点/100点)
 期末テスト 20点(山根+Le Bois 合同)
 山根の授業での平常点 15点
 Le Bois の授業での平常点 15点

■ 読み書き重点コースの授業:Aクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。フランス語の文章に向き合うことによって、知的で厳密なフランス語への習熟を図るのが、読み書き重点コース(Aクラス)の本旨です。

研究や仕事でフランス語を使うという中期的目標を見据え、伸びしろの大きなフランス語基礎力を養います。つまり、複雑な構文を苦にせず、文献・資料を正確に読み取る力、自分の思考内容を明快に記述する力、つまり、単なる会話を超えて中身の濃いディスカッションを行う際の基礎になるような堅固なフランス語力を養っていく、ということです。

1. 教科書

(木曜)

・KRISTOF, Agota : *L'Analphabète*, Zoé, Neuchâtel, 2004. (ハンガリー出身のフランス語作家が書いた簡潔無比の自伝的物語。)コピー配布。

(金曜)

・KRISTOF, Agota : *L'Analphabète*, Zoé, Neuchâtel, 2004. (ハンガリー出身のフランス語作家が書いた簡潔無比の自伝的物語。)コピー配布。

・文法(=文のしくみ)、和文仏訳による表現演習

2. 自習教材

インテンシブ3から引き続き、山田博志、F・ヴィラン共著『1からはじめるフランス語作文』白水社 を用います。第2部「応用編」と第3部「表現編」を取り扱います。

金曜日の授業には持参すること。(生協で販売しています。)

3. 担当教員

木曜2限:塩田明子

金曜3限:山根祐佳

4. 学習のリズム

毎木曜には、KRISTOF, Agota : *L'Analphabète* を厳密に読み進めます。それをめぐって各種の解説を加え、演習もおこないます。金曜日に指定されるテキスト抜粋の書き取りテストと暗誦チェックを実施。テキスト理解度と語彙獲得を確認する小テストも実施。

毎金曜には、文法をしっかりと学習し、語彙力強化をめざして演習をおこないます。副教材に沿って和文仏訳小テストを実施。KRISTOF, Agota : *L'Analphabète* の読解も進めます。

5. 授業スケジュール(あくまで暫定)

週	インテンシブ4(Aクラス)週ごとのテーマ
1	導入
2	<i>Langue maternelle et langues ennemies</i> ①
3	<i>Langue maternelle et langues ennemies</i> ②

4	<i>La mort de Staline</i> ①
5	<i>La mor de Stalinet</i> ②
6	<i>La mémoiret</i> ①
7	<i>La mémoire</i> ②
8	<i>Personne déplacée</i> ①
9	<i>Personne déplacée</i> ②
10	<i>Le désert</i> ①
11	<i>Le désert</i> ②
12	<i>Comment devient-on écrivain ?</i> ①
	<i>Comment devient-on écrivain ?</i> ②
13	<i>L'alphabète</i> ①
14	<i>L'alphabète</i> ②

6. 成績評価

コース別授業に対応する点数は、インテンシブ 4 全体の 50/100 点です。

平常のテスト(およそ計 30 点)と学期末試験(およそ 20 点)の結果にもとづき、担当の2教員が総合的に各履修者の成績を評価します。

■ 話す・聞く重点コースの授業:Bクラス所属の履修者へ

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。話す・聞く重点コース(Bクラス)では、徹頭徹尾、音声言語としてのフランス語をへの習熟を図ります。

話題の文脈や場の状況に応じてスピーディに会話に加わり、聞き取りやすい発音と適切な表現を駆使して筋の通った意見を述べるような、自己表現能力・実践的な口語コミュニケーション能力を養っていきましょう。

1. 機材

podcast で全ての教材をダウンロードできます。

ダウンロード用 URL: <http://frip.sfc.keio.ac.jp/#2> から、インテンシブ 3 用のアイコンをドラッグ&ドロップし、自分の i-Tunes に登録するだけで操作が完了します。ビデオ版と音声版の 2 種類があります。わからないことがあれば、この件に関しては國枝孝弘 (kunieda@sfc.keio.ac.jp) まで連絡してください。

2. 担当教員

木曜2限: フローランス・シュールドル

金曜3限: パトリス・ルロワ

3. 授業内容

毎回、どの教員が担当する授業の場合も、以下の 4 つのアクティビティをおこないます。

なお、授業中は基本的に、筆記用具の使用は許されません。履修者は、説明を聴いてノートを取りながら頭で理解していくというタイプの学習をするのではなく、身体的に言語運用を実践しながら音声と音声の組み立て方を身につけていくことになります。

- ① 予め配布しておいたフランス語の文章(テキスト)を履修者一人ひとりが暗誦する。各学期中に、比較的平易なテキスト6つと、比較的難しいテキスト6つ、1週間に1つずつで計 12 のテキストを扱う。各テキストは単純なフレーズから成り、いくつかのキーワードを含んでいる。履修者は毎回、暗誦できるように用意して授業に臨むとともに、そのテキストについて論拠のあるコメントを準備して来ることとなる(20 分余)。

- ② DVD に録音されている CM を材料とする聞き取り、言い換え (ex. 現在形を過去形に転じる)、ヴァリエーション (ex. もとの CM の改変を想像し、条件法で語る) の演習 (20 分余)。なお、おそらく授業時間外に 2 人 1 組で CM を作ることとなり、それも評価対象となるだろう。
- ③ 口述描写の演習。毎週、4 つの対象をオーラルで描写する。1 学期 12 週間の授業で計 48 の対象を取り上げることとなる。この演習をとおして、さまざまな言い回しが身につく、ある程度長いフレーズを用いることにも慣れていく (20 分余)。
- ④ 「ドラマトロジー」(これは造語) と称し、スタニスラフスキー・システムと呼ばれる演技理論にもとづき、寸劇的なやり取りを実践する。ここでは、言語だけでなく、身体表現も大きくものを言う。リアルな状況の中での自発的・即興的な口語コミュニケーションの演習 (20 分余)。

4. 成績評価

ふだんの教室活動を評価します。学期末試験は行いません。但し、学期末に近づけば近づくほど、その学期中の積み上げが評価対象となります。たとえば、学期末には、授業で扱った計 12 のテキストをすべて、いつでも暗誦できることが求められます。口述描写についても同様です。

木曜日と金曜日は、コース別の授業を行います。話す・聞く重点コース (B クラス) では、徹頭徹尾、音声言語としてのフランス語をへの習熟を図ります。

話題の文脈や場の状況に応じてスピーディに会話に加わり、聞き取りやすい発音と適切な表現を駆使して筋の通った意見を述べることができるような、自己表現能力・実践的な口語コミュニケーション能力を養っていきましょう。

■ 出席について

「出席点」はありません。出席それ自体は、成績評価においては考慮しません。

しかし、1 回、2 回と欠席して休み癖がついてしまえば、学習の積み重ねができず、たちまち遅れをとって、結局脱落するという、また、ただ漫然と、毎回受け身の態度で出席していても、語学は身につかないということ、予習復習が絶対的に必要だということを強調しておきます。

■ Conférence / Grande Rencontre

今学期はレクチャーを 2 回と la Grande Rencontre (インテンシブフランス語を履修している学生が一同に集まる会です) を 1 回予定しています。

- 10 月 10 日 (水) la Grande Rencontre
- 11 月 13 日 (火) Conférence de civilisation 1 : 杉原賢彦 (映画評論家)
「フランス / 映画 / 社会～映像が映し出したフランスとそのイメージ」
- 12 月 13 日 (木) Conférence de civilisation 2 : Florian AUBRY (SFC 講師)
「La Réunion って、フランス？」

・ Conférences, Grande Rencontre は、インテンシブコースの一環です。履修中の他の授業と時間帯が重ならないかぎり、出席必須。

・ Conférences, Grande Rencontre が第 2 限にある日は、インテンシブの通常の授業は、それが 1 限であっても実施しません。

・日時や会場は後日改めて、メールやフランス語セクションのホームページで明示します。

■ マルチリンガル・スペース

メディア・センター2階に「マルチリンガル・スペース」(通称 MMLS)があるのを皆さんは知っていますか。その空間には、CD-ROM、CD、ビデオ、雑誌、新聞、辞書、参考書(仏検、DELFL・DALFL 参考書も)などフランス語の勉強に必要なものが揃っています。

また、フランス語共同研究室隣のλ309にもフランス語版MMLSがオープンしています。先生やTA、そしてSAもすぐ近くに居るので、何か質問があればいつでも尋ねることができます。その上、フランス語の放送TV5も見ることができます。大いに活用されたし！

■ チャレンジ

以下のフランス語能力資格試験・能力認定テストを積極的に受けることを奨めます。

(→ 日程などの詳細はフランス語研究室HPにリンクしてあるウェブサイトへ。)

- DELFL/DALFL → DELFL B2 合格へ！
- 仏検(実用フランス語技能検定試験) → 準1級合格へ！
- TCF(フランス文部科学省認定フランス語能力テスト) → 400-499 点！

2012年9月

慶應義塾大学SFCフランス語研究室